

OSCE外相理事会における河野政府代表の発言

〈12月4日（木）5日（金）〉

議長,
御列席の皆様,

（冒頭）

●今次外相理事会の開催に向けてリーダーシップを発揮してきた議長国スイスに感謝します。とりわけ、ブルカルテール大統領とスイス政府が各国代表団に示したおもてなしに深謝します。

（欧州とアジアの安全保障、ウクライナ情勢と我が国の貢献）

●テロ、大量破壊兵器、感染症等、国境を越える脅威や、海洋、宇宙、サイバー空間といった国際公共財への自由なアクセスに対するリスク等、地域を越えた共通の安全保障上の課題が存在します。日本は、こうした課題に対応する上で、法の支配、主権、領土の一体性を重視しており、いかなる地域で生じたものであれ、一方的な現状変更の試みに対しては、国際社会全体が声を上げることが必要との考えです。その観点から、ウクライナで発生している事態は、欧州のみの問題ではなく、アジアを含む国際社会全体にとって極めて重要な問題です。

●9月の停戦合意が遵守されず、戦闘が一部地域では激化し、犠牲者がほぼ毎日発生していることにつき深く憂慮しております。また、11月2日に分離派支配地域でウクライナ法に基づかない形でいわゆる「選挙」が実施されたことは極めて遺憾です。ウクライナ法に基づかない今回の「選挙」は正当性がなく認められません。

●日本としては、全ての当事者が停戦合意を遵守し、ウクライナの主権及び領土一体性を完全に尊重する形で、問題の平和的解決に向け、努力することを求めます。

●日本は国際協調主義に基づく「積極的平和主義」の下、ウクライナの平和と安定のため経済支援、東部の復興支援等を実施しています。また、OSCEを通じ、政治対話促進ミッション、特別監視団、選挙監視ミッションに対し、財政的・人的貢献を行ってきました。今後もG7の連携を重視しつつ、OSCEとも協力しながら問題の平和的・外交的な解決に向け役割を果たしていきます。

(OSCEと日本の連携の重要性)

●安全保障を包括的に捉えるOSCEのアプローチは、日本の外交・安全保障上のアプローチと共通しています。

●日本は、OSCEをグローバルな安全保障課題の解決に取り組むパートナーと位置付けており、OSCEと連携して地域・世界の平和、安定、繁栄の確保に一層貢献していきます。

●本年6月、日本はOSCEとアジアパートナー国との共催会議を東京で開催しました。OSCE事務局及び各国から頂いた協力を改めて感謝します。欧州とアジアの安全保障環境は不可分であること、欧州、アジアが双方から多くを学び、協力を深めていく余地があることを確認することができました。

(テロをはじめとするグローバルな課題への対応における日・OSCEの連携実績・今後の方針)

●日・OSCEの具体的連携事例は、OSCEの国境管理スタッフカレッジへの拠出を通じた国境管理の強化によるテロ防止、女性起業家支援プロジェクトへの拠出を通じた中央アジアの女性起業家支援、少数民族を含むウクライナ国内における対話促進や信頼醸成を図るための政治対話促進ミッションへの財政的・人的貢献、と多岐にわたっております。今後も、グローバル課題に適切に対応するため、日本の得意分野でOSCEとの協力を促進していく所存です。

御静聴ありがとうございました。